
歌声

鴉横

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歌声

【Nコード】

N4048P

【作者名】

鴉横

【あらすじ】

いつも聞こえる歌声。僕とある女性の話です。

いつも通る道。

いつも聞こえる歌声。

最初は通る時に聞くだけ。

次はちよつと意識しながら聴くだけ。

その次は時間が許すだけ。

歌声はいつも違う。

楽しいそうな声。

優しいそうな声。

ちよつと怒ったような声。

歌っている人の顔は見たこと無いけど声でわかる。

いつも音色が違う声。

でも、ある日から悲しい歌声しか聞こえなくなった。

(どうしたのだろうか？)

会ったこともないが心配になった。

今日もあの場所に行く。

いつもの場所に一人の女性が立っている。

その人はこっちに気付いた。

「いつも聴いてくれてありがとう。」

(ああ、この人が歌っていたのか)

「もう、ここでは歌わないから…」彼女は寂しそうに笑いながら言った。

「どうして？」

「引越すの。だから、最後にお礼を言いにきたの。」

ショックで何も言えなかった。

同時にしようがないと思う自分がいた。

「そっか。今まで素敵な歌声をありがとう。」
そんな普通なことしかいえない自分が情けない。

あの日から本当に歌声は聞こえなくなった。
寂しかった。

隣の家に誰か引っ越してきた。

あの歌声が聞こえてきた。

僕は驚いて隣の家を見た。

そこには彼女がいた。

あの時の寂しそうな顔をしている。

僕は必死に手を振る。

彼女が気付いた。

嬉しそうな顔をして歌ってくれた。

僕もとても嬉しかった。

また、その日から歌声が聞こえてきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4048p/>

歌声

2010年12月10日08時16分発行